

## 第7回 清瀬市新庁舎建設基本計画策定委員会 議事録（要旨）

日 時： 平成26年6月17日（火曜日） 18：00～20：15

場 所： 男女共同参画センター4階 会議室1・2

事務局： 企画部新庁舎建設室新庁舎建設係

出席者： 委員10名（澄川委員、齊藤委員、山本委員、平倉委員、波澄委員、  
下嶋委員、中川委員、林委員、菊間委員、八代田委員）

その他5名（企画部長、企画部新庁舎建設室長、他3名）

コンサルタント3名（吉村、上原、一戸）

欠席者： 委員2名（三井所委員、小山委員）

傍聴者： 1名

### 会議次第

1. 開催の挨拶
2. 前回議事録確認
3. 配布資料説明
4. 議事
  - (1) 新庁舎に求められる機能と実施方策について
    - ①市民とのつながりが広がる庁舎
    - ②清瀬の地域性と環境に配慮した庁舎
5. その他
6. 閉会

### 配布資料

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本日次第</li><li>・ 第6回委員会議事録（案）</li><li>・ 【資料1】 第7回策定委員会資料</li><li>・ 【資料2】 職員アンケート実施報告書</li><li>・ 【資料3】 パブリックコメント検討結果報告書（案）</li><li>・ 【資料4】 先進地（立川市役所）視察会の実施について</li></ul> |
|--|

## 審議経過

### 1. 開催の挨拶

委員長より開会のあいさつ。

### 2. 前回議事録確認

(委員) 今まで出た意見がどのように基本計画に反映されているのか、保留事項や今後議論する必要のある項目などを整理して欲しい。自分の意見も他の委員の意見も含めて発言が流れてしまうのは良くない。

(事務局) 意見がどのように反映されたかは、本題に入る前に毎回赤字で修正してご説明させて頂いているが、以前提示頂いた意見で今後検討が必要なもの整理するということでしょうか。

(委員) 設計の段階で検討すべき内容の意見で、時期尚早として今回の基本計画には反映されなかったものについては、設計段階で設計者に伝えるべき内容として整理が必要だと思う。

(事務局) 議事を振り返り精査を行いますので、取りまとめの仕方については検討のお時間をください。

(委員長) 各委員も気になることはその都度発言願いたい。

(事務局) その時には話す段階ではなかった件についても、委員でお気づきでしたらご発言願いたいと思います。

(事務局) 委員から事前の指摘事項で1点修正があります。P2の「3. 配布資料説明」文中、委員発言のうち「都市ガスの復旧は早いので」とある文章を「都市ガスの中圧導管は復旧が早いので」と修正させてください。

### 3. 配布資料説明

(事務局) 【資料3】パブリックコメント検討結果報告書(案)について事務局から説明。

(コンサルタント) 【資料2】職員アンケート実施報告書、【資料1】第7回策定委員会資料の前回審議修正部分(P1～P23)についてコンサルタントから説明。

(委員) パブリックコメントについて、中間報告の内容では具体性が無いため意見が出てこない。委員会の最終報告でもう一度パブリックコメントを行うのでは遅いと思う。ある程度の段階でパブリックコメントを行って、委員会に反映していくべきではないか。

またパブリックコメントの様に意見を求めるだけでは、回答者が少ないので、市民に無作為アンケートを行ってはどうか。

(委員) 職員アンケートの属性は、回答した職員だけの属性なのか。アンケート対象職員の属性についてもまとめるべきではないか。通勤手段について

も人事関係部署で把握しているはずだと思う。

職員アンケートを行っても全ての意見を盛り込むことはできないため、職員への回答を検討すべきではないか。

男女別の回答結果は回答数割合で出しても、男女の回答数が違うので意味がない。やるなら優先順位 1、2、合計の数値を男女に別けて評価すべきだと思う。

また、前回資料の修正部分については、前回出た意見が全て反映されているのか。

(事務局) 反映されています。

(委員) 男女別で割合を出す意図はあるのか。

(コンサルタント) 意識調査設問が主となるため、年齢別の集計より男女別での意見の差が表れやすいと考えた。

(委員) 今までの慣例に習って集計をしたと感じた。仕事をする上では男も女もない。例えば明るさなどは年齢別、職位によっては仕事内容が違うので意識差が出るのでは。

(委員) 確かに男女比までを出す必要は無いのではないか。

(事務局) 男女比の部分は除くということで宜しいですか。

(委員) 私はこのままでいいと思う。女性がどのように考えているか、違いが判る。後はこの資料を参考意見として捉え、設計に活かして貰えばいいと思う。

(委員) 元々この職員アンケートを今後どのように利用するかが大事であって、結果をどのように表すかについてはこだわる必要はないと思う。

それより回答率が 37.08%しかないのが気になる。時間的な制約があったとしても、職員の関心をもっとあっていいと思う。職員の市庁舎に対する思いが少ないと感じた。

(事務局) 37%の回答の中には、学校給食調理員、学童指導員、保育士など、今まで直接庁舎に関係が無かった職員も含めてアンケートを実施しました。直接庁舎に関係のある職員の回答率は 50%を超えています。

(委員) 職員アンケート結果をホームページなど、どこかに公表するのか。

(事務局) この委員会でお示しした上で、庁内の検討委員会などで示す予定です。ホームページで公表の予定はありません。

(委員) パブリックコメントの結果公表は既に行っているのか。

(事務局) パブリックコメントの結果は、この委員会でお示しをして、了承を得た上でホームページに公表します。

(委員長) この委員会において、現実に働いている職員の意見を聞きたいということで取ったアンケートなので、結果が出たということでのいいのではない

いか。

(委員) パブリックコメントはぜひ公表して頂き、職員アンケートは委員会の参考資料として考えればいい。今後年齢別の分析が欲しいなどの要望があれば、提示して欲しい。

(委員) 職員アンケートを基に何か意見を取り上げるのはどの段階でやるのか。

(コンサルタント) 例えば今後の委員会の話し合いの中で、何かを取捨選択する必要がある時に、職員の意識調査の内容を活かすことができると考えています。

(委員) それを委員がやるのか。作業的に大変だと思う。真剣にやらないとできないので、2時間の委員会の中ではできない。別に自分の時間を使って分析しなければならない。私が設計者ならば、アンケートの項目によって、年齢別の分析が欲しいなど丁寧な見方をしていかなければならない。

(コンサルタント) 補足ですが、今回の委員会で議論しているのは基本計画なので、細かい設計まで話し合うものではありません。骨格となる部分を委員会で検討し、その案を持って、今後庁内委員会で検討する際に、職員アンケートと照らし合わせながら肉付けを行い、再度委員会に提示していきたいと考えています。

(委員) 職員アンケート結果の活用の流れを、報告書につけて貰いたい。

(委員) 職員意見なので、今後の設計時に資料の一つとして職員アンケート結果を提示して、設計内容を詳細に精査していく時に活用して貰うことや、庁内委員会の話し合いの時などの資料に使うことによって貰えばいいのではないかと。庁内委員会や設計者が年齢などの細かい分析を必要だと判断した時に、加工して分析できるような資料であればいいのではないかと。

(委員長) 当委員会では、設計をする訳ではないので、このような希望があるという資料を集めることが一つ仕事だと思います。詳細内容については設計段階で精査するものとして、進めていけばいいのではないかと。

(副委員長) 職員アンケートとしては、男女別や年齢別などで、それぞれ元データがあるはずなので、それはそれで有意義だと思う。

今回の委員会として必要とされる情報として、意見をどのようにまとめるのかが問題で、基本計画を策定する上でどのような資料が必要なのか整理した方がいい。解析の方法は難しい問題だが、データとしてはとっておいて、然るべき時に活用できるようにしておけばいいと思う。

(委員) 細かい内容については、設計の段階でも職員アンケートを再度実施する必要があると思う。

(事務局) 先ほどの委員質問に回答したいと思います。最終答申案の前にパ

ブリックコメントを行うことに代わるものとして、中間報告書の市民説明会時に本委員会委員の生の声が聴きたいという意見がありましたので、パネルディスカッションなどの市民フォーラムを行ないたいと考えています。

次に市民アンケートについてですが、市では3年に一度、世論調査を行うことになっており、今年7月に千世帯を対象に実施する予定です。新庁舎以外の設問もあるため、新庁舎に関わる設問は4つのみとなりますので、少ないようでしたら、また個別にアンケートを行うことを検討する必要があると考えています。

#### 4. 議事

(コンサルタント)【資料1】第7回策定委員会資料の今回審議分(P24以降)についてコンサルタントから説明。

(委員) P24の市民交流スペースの記述があるが、市には様々な団体があるので、スペースを利用する各団体に意見を聞いた上で、設計に反映してはどうかということが1点。2つ目に、展示会・講演会などのイベントで使わない時の使い方はどうするのか。3つ目に、このスペースは災害時に、市民と防災センターを接点として重要な役割を果たすのではないかと思う。例えば、被災情報、安否情報、物資の提供、ボランティアの受入れ窓口、ライフライン関係者との情報交換、以前話のあった市民の一時避難場所などが考えられる。イベントのある時、ない時、災害時などの様々なケースを想定して対応することを考えておかなければならない。基本計画の内容としては、災害時の活用方法について記述がされていればいいと思う。

(コンサルタント) 2つ目の質問について、展示会などのイベントで使わない時は、市民交流スペースの1行目に記載している通り、休憩・談話スペースなどで活用することを想定しています。

(事務局) 災害時の活用方法については、記述を追記します。

(委員) まず、補足として、そのスペースは臨時窓口としても使えると思う。2点目は、食堂等の設置についてだが、市民の方が喜んでくれればいいが、職員アンケートの結果から推測するに、採算上運営が成り立つのか検討する必要があり、今の段階で「計画します」と言い切っているのか。

(委員) 現市庁舎も食堂の設備があったと思うが、現在は運営していない。利用者が少なく、経営が成り立たなかったのではないか。

(事務局) 確かな情報ではありませんが、建設当時は食堂が必要として設計しましたが、周りに飲食店がいくつかあったので、飲食店を利用して欲しいので、食堂はやらないで欲しいという話があったと聞いています。現在はコンビニ1軒とパン屋があるだけなので、当時の状況とは少し違うと思います。

(委員) 近隣市の比較的新しい庁舎でも、食堂を止めたところがある。

(委員) 食堂は必要ないと思う。職員アンケートにも要望があり、あった方がいいとは思いますが、それを維持するために税金を投入して欲しくない。厨房まで造って、閉鎖になってしまったのでは、最初の設備投資が無駄になるし、応用がきかない。専門業者に依頼して、この立地で経営が成り立つか検証してから決めるべきだと思う。慎重に進めて頂きたい。先進事例の運営状況などを確認して頂きたい。

(委員) 庁舎周辺に食べる場所がないとは感じるが、庁舎に食堂があっても市民は利用したいと思うかは疑問を感じる。市庁舎に障害のある方がパンを売りに来たりしているので、設備投資を極力避けて、自動販売機やコーヒーメーカーなどを設置するカフェ程度の整備として、そのような休憩スペースでパンを買って食べたり、コンビニを設置するのであれば、買ったものを食べられるようなスペースを設ける程度でいいかと思う。職員の絶対数がある都庁舎などと比べて清瀬は規模が小さいので、ニーズが少なくて閉鎖してしまったとなれば、設備投資の意味がなくなってしまう。

(委員) 市庁舎の近くのパン屋は流行っている。食べる場所はあった方がいいと思うが、状況に合わせた検討の必要があるのではないかと。

(委員) 特色のある地産地消のメニューは良く報道もされているが、役所だと営業時間が短いのので、ディナーのメニューができないと採算が合わなくなると思う。

(委員) 庁舎が5時で終わるのはもったいない気がする。朝早くから夜遅くまで使い回して欲しい。富山にある庁舎に行った時、庁舎中庭の一角にカフェがあり、朝の早い時間から散歩の人がたくさん利用していた。アイディアは若い世代の方にも聴けば沢山出てくると思う。

(委員) 食堂ではなく、市民も利用できる飲食スペース程度の表現でいいと思う。

(副委員長) 食堂以外の項目でも、ATMコーナーなどを市民交流スペースと考えないと、事業性に関わる部分があり、有効に長時間使うことにより、市庁舎の中で機能を分散させることに抵抗を感じる。また、オープンスペースにして不特定多数の人が出入するようになると、場合によっては省エネに関しては成り立たなくなるなど、計画内容に矛盾が生じることもあると思う。あまり断定する表現は避けるべきだと思う。『検討する』、『計画する』など、どのような表現するか整理をする必要がある。

(委員長) この委員会では食堂等の設置について「検討する」にする。

(委員) P26議場の形態に関して、フラット方式を推薦しているようだが、傍聴席を高くする必要はない。フラットにして災害時に使える様にした方がいい。また、以前に議場を入口近くに配置する案もあったが、議場は特殊な

ので、隅の方でもいいと思う。議場に関心がある人は探してでもいく。

(委員) 議場の多目的利用を考えた時に、家具は可動式になるので収納スペースを確保する必要がある、傍聴席を上げていけば、その下に収納することも考えられる。

フラット式のデメリットのところに見えにくいと書いてあるが、机の配置をハの字型にするなど工夫次第でクリアできる。参考写真の親子席が分かりにくいのと、写真は段床式ではなく、フラット方式の写真を使うべき。

(委員) 傍聴席を上げてしまうと、車いす利用の方用に昇降用の設備が必要になる。家具収納スペースは傍聴席の下ではなく、個別に設ければいいので、傍聴席を含めフラットでもいいと思う。

(委員) 防災上必要な設備はどのようなものがあるのか。一つの空間を単一の機能として考えるのではなく、様々な状況を考慮した上で、どのようなインフラが必要なのか検討が必要だと思う。

(委員) 「開かれた議場」と言う表現が議員に気を使っているように感じる。議場は応用がきく空間であって欲しいと思う。

(委員) 委員会の意見はフラット方式なので、計画書の文面は「検討する」ではなくて「計画する」でもいいのではないか。

(委員) 傍聴席も大切だが、陳情・請願を出しやすい雰囲気づくりも考えなければならない。市民と議員のコミュニケーションが図られる接点の場があった方がいいと思う。

(委員) 会派によっては、議会の後に市民との意見交換の場を用意している。機会はあるが、参加者が少ない。

(委員) 議場だけではなく委員会室も、会議室が足りないという職員アンケートの結果もあったので、兼用できることもいいと思う。

市民参画の情報コーナーは紙のことばかり書いてあるがOA機器の導入なども含めて記載してはどうか。

(委員) 委員会、本会議の傍聴者数はどの程度か。

(事務局) その時々によりますが、委員会で陳情請願が出た場合、関係者が来ると30～40人位の時もあります。本会議の傍聴者については、多い時間帯で20～30人の時があれば、少なくとも1～2人の時もあります。

(委員長) いざという時に使える様に議場はフラットでよろしいか。

(委員) 議員も自分たちのことだからという事は言わないと思う。市民と共にやっていこうという気持ちの人が多いいと思う。

(委員) 「市民交流スペース」と「市民協働ルーム」というのは分ける必要はあるのか。「市民交流スペース」と「市民協働ルーム」を兼用できないのか。

(コンサルタント) それぞれが近くに配置することはできるが、「市民交流ス

ペース」は比較的オープンなスペースを想定しており、「市民協働ルーム」は会合やミーティングを想定していたため、会議室のような形態になるという意味で分けて記載している。

(委員) 特別に造るのはいかなものか。空いている会議室を市民が利用できるようにしてはどうか。

(コンサルタント) そのような運用方法も考えられる。

(委員) 別に「市民協働ルーム」は設けた方がいいと思う。空いている会議室利用では、職員の予定が優先されてしまい、使いたいときに使えないなどの問題がある。

(委員) 時間外利用の方法についても検討する必要がある。別の入口を設けるなどセキュリティをしっかりとしないといけない。

(委員) 「市民交流スペース」の近くにあった方が時間外利用もしやすくなるのではないか。

(事務局) 視察を予定している立川市では、行政機能と市民利用スペースが分かれており、セキュリティ上の仕切りができるようになっています。

(委員) やはり配置としては市民交流スペースの近くにあった方がいい。

中間報告の内容を見ると緑化について謳っているが、市庁舎について考えてみた場合、敷地形状も決まっておらず、屋上緑化の対応など理想的だが、設備のみならず、緑化についてもメンテナンスなど維持管理の観点から、経済的に実現可能なのかを検討していくべきだと思う。

(委員) メンテナンス性も重要だが、世の中の流れとしてもエコ関連の対策、環境に配慮し緑化を推進していく方向になっていっているのではないか。

(副委員長) 緑化は何を目的としてやるのが重要である。屋上緑化をするためには、屋上緑化に耐える建物構造とすることがあることや、水の問題などもある。環境面で屋上緑化を推進することもあるが、遮熱作用として屋上緑化を進めるのであれば他の方法もある。どこに価値を置くかということで、環境面、メンテナンス性なども含めて必要性を検証する必要はある。

(委員) 清瀬市は既に緑化は進んでいるので、そちらで我慢して貰うとして、無理に建物に組み込む必要はないのではないか。現在の敷地で十分な緑化や植栽は厳しいと思うので、この部分の記述を少し抑えてもいいと思う。

(委員) 敷地面積としては、狭い方ではないのではないか。

(委員) 駐車場スペースの確保が必要だと思う。

(委員) 建物の構造によっては地下駐車場も考えられる。費用的に対応が可能であれば地下駐車場にする方法がある。清瀬の場合、緑を増やすための緑化というよりも、市民の憩いの場とか、遮熱のために緑化をすることが本来の目的だと思う。



(委員) 清瀬市は緑が多いので、屋上緑化は私も目的を考えた方がいいと思う。地下駐車場については、イニシャルコストやメンテナンス費用もかかるので、可能な限り平面などの後に費用が掛からない方法で計画した方がいい。緑化については条例に基づく範囲で整備する程度でいいのではないかな。

(委員) 敷地の選定がまだ確定されていない。この計画書が現敷地での仮想のものあり、状況により敷地が拡大されれば色々な可能性が出てくるということを記しておく必要があるのではないかな。

(委員) 私は現敷地での検討と思っている。隣接地を取得できた場合は、現状よりいい方向に行く話なので、検討は現敷地を前提でいいのではないかな。

(委員) 再生可能エネルギーの活用のところでは手法がいくつか書いているが、清瀬では、柳瀬川を活用して小水力発電はできないか。距離的には多少遠いのでどうかとは思いますが、売りにできたらいいと思う。

(委員) 太陽熱を利用するOMソーラーハウスのシステムを公共施設に応用している事例もあるようだが、やっている事例が少ないのは、効率が悪いのか。電気代は掛かるが、暖房効率で初期投資の元を取るの難しいのか。

(委員) 初期投資が高いのと、太陽熱が取れない場合の補助暖房も計画する必要があるので、設備が二重に必要となる。

(委員) ランニングコストを抑えることで初期投資の元を取るの、太陽光発電と考え方は似ているが、余り考えない方がいいと思う。

(委員) 検討の余地はあるが、大きい建物の場合はどうだろうか。

(委員) 職員の要望にはなかったが、和室の計画をするのであれば、炉や床の間を設けてはどうか。

(副委員長) 郷土博物館にそのような和室があるので、そこの兼ね合いがあると思う。

(委員) 庁舎で計画している例もあるが、余り使用されていない。

(事務局) 現庁舎にも和室の休憩室はある。

## 5. その他

(事務局) 【資料4】先進地(立川市役所)視察会の実施について事務局より説明。

## 6. 閉会

(委員長) 閉会の挨拶